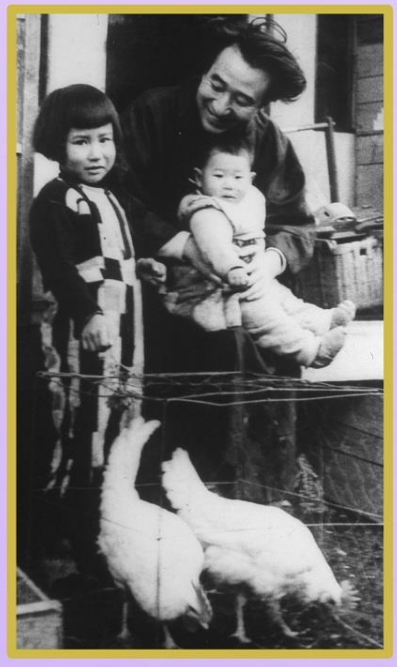
八十嶋洋子プレゼンツ

第7回 ―後編―
クララの室内楽



自宅縁側で娘たちと／昭和23年4月
写真提供:日本近代文学館

ゲスト
萩原 茂
（日本近代文学研究者）

八十嶋 洋子
（ピアニスト）

「ああ、別離は、くるしい。」（絶筆「グッド・バイ」より）

『太宰とショパン、新たな愛と苦悩』

……共に39年の生涯を終えるまで……

Program

クララ・シューマン：前奏曲
ショパン：24の前奏曲集　op.28より1、3、4、15「雨だれ」、24前奏曲　op.45
ピアノソナタ 第3番 ロ短調 op.58 最終楽章
「追憶のノクターン」
「幻想即興曲」op.66
マズルカ　op.68－4（遺作）
ブラームス：小品集　op.76より　間奏曲
……そして、萩原氏による創作詩朗読と……

2022年**11月6日**(日)

高輪プリンセスガルテン内 ホール
アンビエンテ
※プリンスホテルではありませんのでご注意下さい

〈第一回〉13:00開演（12:40開場）　〈第二回〉16:00開演（15:40開場）

チケットお申し込み スタジオ•フリーデル　チケット受付担当（渡辺）TEL.03-6264-7892
（電話受付11：00～17：00）
料金 一般 ¥4,000円/学生 ¥3,500 ※全て税込　要予約 ※未就学児のご入場はご遠慮願います。
お問い合わせ スタジオ・フリーデル TEL.03-5700-4055

主催：スタジオ・フリーデル
後援：日本ブラームス協会、銀座十字屋、[認定]NPO法人アジア·チャイルドケア·リーグ

太宰治とショパン、文学・音楽と芸術の道は違えど、いずれも破滅型と云われるほど、ピュアな魂を燃やし尽くした人生を歩んだ。二人の芸術家には、その歩みを支えた女性たちがいた。おそらく並大抵な女性ではその任は務まらなかったろうし、彼女たちが愛した男たちは芸術家である前に人間であり、新たな愛との出会いにも逡巡しなかった。愛か芸術か。切ない葛藤と狂おしい想いの狭間で、太宰とショパンという希代の二人を重ね合わせ、それを支えた女性たちを描いた前回から、今回は円熟期を迎えた二人の巨人を支えた新たな愛、津島美知子とジョルジュ・サンドらへの考察から描く後編ということになる。音楽家シューマンの妻で、自身も音楽家であったクララ・シューマンに着目し、まるで化身のように、女性と音楽、それを巡る人生について芸術的昇華するという試みの地平線を歩いてきた八十嶋洋子だが、その着眼点をクララ以外の音楽や文学へも拡張し、ますます表現を研ぎ澄ませている。今回は、取材旅行も敢行し、準備も万端なようである。（森 泰義／銀座十字屋）

萩原 茂 はぎわら しげる（日本近代文学研究者）

東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒業、同大学専攻科修了。日本近代文学専攻。卒業論文のテーマは「太宰治論」。1981年、吉祥女子中学・高等学校に就職。現在、同校理事長。中央線沿線の文学者を主に調査・研究。東京の文学散歩の案内を30年以上続けている。主な著書に『名作への架け橋 小学生の読書案内』、『「阿佐ヶ谷会」文学アルバム』(共著)、『太宰萌え』(共著)など。論文に『漱石とロンドン』、『与謝野晶子-荻窪の家と文化学院-』、『太宰治 青春の彷徨~無名の若者は荻窪で作家になった~』、『"主体的・対話的で深い学び"の実現を目指した授業 茨木のり子の随想「空と風と星と詩」を読む~尹東柱の詩と人間像~』、『津島祐子を育んだ家と町の記憶~東京を歩く~』など。2017年、山梨県立文学館・「津島佑子展」の図録に執筆。2020年「詩人尹東柱を記念する立教の会」において、授業の研究発表。2022年、山梨県立文学館で「太宰治の戦争―戦時下における表現と作品群」という演題で講演。

「富士には月見草がよく似合う」（「富嶽百景」）

最初の妻・初代と別れた太宰は心機一転を図るため、昭和１３年９月、荻窪を離れ、御坂峠の天下茶屋（山梨県南都留郡河口町）に「思いをあらたにする覚悟」（「富嶽百景」）で向かう。そこで、甲府に住む石原美知子との面談話があり、昭和１４年１月８日、二人は井伏鱒二邸で結婚式を挙げ、甲府で新居を構える。甲府での生活は太宰にとって「これまでの生涯を追想して、幽かにでも休養のゆとりを感じた一時期」（「十五年間」）だった。昭和１４年９月、甲府から終の栖となった三鷹に転居。三鷹時代は次々と作品を発表し、プロの作家として充実期を迎えるが、それは新たな愛と苦悩の始まりであった。戦争は激化していき、太宰一家は疎開を余儀なくされる。太宰が自死したのは、戦後の昭和２３（１９４８）年６月のこと。太宰を支えた妻・美知子は一人で子ども三人を育て、太宰の死から４９年後の平成９（１９９７）年２月に亡くなった。８５歳の生涯だった。（萩原 茂）

八十嶋 洋子 やそしま ようこ（ピアノ）

東京都出身。東京藝術大学ピアノ科卒業。旧西ベルリンにてピアノをG・プッヘルト、D・ヘクスタ両氏に、室内楽をR・ワインスハイマー氏に師事。在独中ジュネーブ国際コンクール他、多くのコンクールで伴奏ピアニストを務める。ベルリンのロイヤルアカデミーオブダンシングの正式ピアニストとして数々の公演に出演。1982年ベルリンフィルハーモニー室内楽ホールにて八十嶋龍三とのデュオでデビューの後、チェロとピアノの作品の研究を続け、ドイツ日本各地で演奏活動を続けた。大学在学中より永年にわたり、日本を代表する作曲家、平井康三郎氏に師事、多くの日本歌曲の初演、ピアノソロでNHK-FMに出演。現在ピアノソロをはじめ、(チェンバロを含む)室内楽奏者、伴奏者として活動の他、国立がん研究センター他、病院、施設での音楽会企画にも積極的に取り組んでいる。これまでに、久保田裕子、林美奈子、松崎俊三、永井進、田村宏、の各氏に、2019年より金澤希伊子(桂子)氏に師事。吉祥女子中学高等学校非常勤講師。また、亡き夫から引継ぎ、スタジオ・フリーデル、チェロアンサンブルの"ゴーシュの会"を主宰し、恩師である"ベルリンフィル12人のチェリストたち"の創始者ワインスハイマー氏と現在の"12人"の協力を得て夫の遺志を継ぎ、チェロ合奏の楽しさを広めている。2018年3月ドイツのボルケン、フランクフルトにてクララ・シューマンに因んだ室内楽コンサートに出演。2015年に始めた「クララの室内楽」シリーズは毎回魅力的なゲストを招き、新しい切り口で音楽に迫り、聴衆に新鮮な喜びを伝えている。第7回は再び文学とのコラボを、最終回はドイツでも公演の予定。日本演奏連盟会員。

「クララの室内楽」これまでとゲストの方々

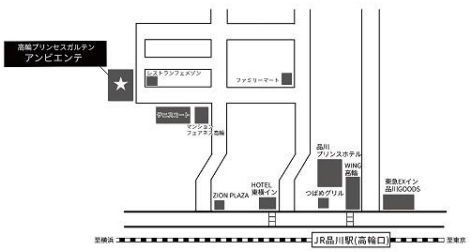
2015「シューマンとクララ、シューマン家の音楽会」西原 稔（音楽学者）
2015「クララとの結婚で湧き上がる愛の交歓～シューマン珠玉の歌曲集」小川 哲生（声楽家）
2016「ブラームス…クララ・シューマンと歩んだ音楽の人生」
　　漆原 啓子（ヴァイオリニスト）、西原 稔（音楽学者）
2016「パリの与謝野晶子、愛の確認…そして音楽」萩原 茂（日本近代文学研究者）
2017「ベートーヴェンともう一人の不滅の恋人…テレーゼ」西原 稔（音楽学者）
2018「旅するクララ、フランクフルトで過ごした人生最後の日々」野田 一郎（コントラバシスト）
2021「太宰とショパン（前編）、青春の彷徨～愛と苦悩の日々～」萩原　茂（日本近代文学研究者）
2022「〈ドイツ･レクイエムへの道〉ブラームスと神の声･人の声」西原　稔（音楽学者）

高輪プリンセスガルテン アンビエンテ

注：プリンスホテルではありません

〒108-0074　東京都港区高輪4-24-40 高輪プリンセスガルテン内
ＪＲ品川駅高輪口より　徒歩約6分
TEL:03-3443-1521

品川駅高輪口正面の信号を渡り、第一京浜国道を左へ真っ直ぐ。
Hotel東横インを過ぎて一つ目の角を右折。
150mほど直進して左側に見える最初の曲がり角を左折。



会場での感染防止対策は適切に行いますが、皆様のご協力ご理解、どうかよろしくお願い申し上げます。